



あさひ

9月号

令和4年8月29日
横浜市立旭小学校

「思いをもつ力」

「やり抜く力」

「関わる力」

【WEB】 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/>

【Instagram】 [asahi_e.s._yokohama](https://www.instagram.com/asahi_e.s._yokohama)

RESTART

“121st SCHOOL YEAR”

見ようとしなければ 見えないものがある

校長 益子 照正

40日ぶりに学校にあさひっ子が戻ってきました。3日間の臨時休業を実施した1年前と比べ、国内の感染者数は約10倍、神奈川県内では約4倍の数値をはじき出していますが、社会情勢は大きく変化しました。行動制限を行わなくても、主人公である私たち市民がしっかりとした意識のもとで生活を進めることで、コロナ禍以前の日常を取り戻していく「WITH コロナ」の意識が浸透してきました。12月までの長いシーズン、4～6年生の宿泊体験学習をはじめ、各学年の行事、日常の学習においても「最大限にできることを求めて」学校教育を進めていきます。

さて、夏季休業中には教職員の研修機会がたくさんあります。私も、複数の研修会に参加してきました。その中の一つ、「生活科」学習の研修会で耳にし、強く心に残っている言葉の一つが、表題に引用した「見ようとしなければ 見えないものがある」というフレーズです。

これは、学校での授業づくりの際に大切にしていましょ、という内容で使われたものです。1・2年生で学習している「生活科」では、知識及び技能の基礎として「気付き」を大切にしています。ここでいう「気付き」は、学習指導要領において「対象に対する一人一人の認識で、主体的な活動によって生まれるもの」と定義されています。ある花を見かけ、じっくりと観察したとします。初見では「〇〇ってこんな色でこんな形をしているんだ」と感じたのに、数日後に再び見たとき、「あれっ、この間とは印象が違うぞ、どうしてかな？」という感覚になったり、「たった数日で、こんなに変わるんだな」と動植物が成長することへの確かな認識につながったりしていきます。だからこそ「気付き」を大切にするので。

このフレーズを耳にした際、すぐにこの夏の自分と結び付きました。私は、この夏に長崎市に行ってきたのですが、自身2度目の訪問でした。初回は12年前の冬、学級担任だった私にとって特に興味があった長崎市で行われた授業研究会に参加するための訪問でした。この際には、いわゆる観光名所を授業研究会前後の短い時間に、しかも他者の力を借りて駆け足で訪れたため、現地に行ったという事実はあっても、訪問先についてあまり心に残りませんでした。それから、いつかじっくり歩いてみたい、と思っていたのです。そんな今回、ゆったりとした時間の中で自分の足で訪れたので、前回と同じ場所を訪れたのに、見え方が違うのです。被爆を機に世界の平和を願ってつくられた平和公園の祈念像は有名ですが、そのすぐ南側にある「平和の泉」には、12年前には気づきもしませんでした。暑い夏のさなか、灼熱の地獄にさらされた方々は、どれだけ水を欲したのか、想像すると言葉になりません。平和の泉から徒歩で数分に位置する爆心地公園には、前は立ち寄ってもいませんでした。そこには、爆心地から数十メートルしか離れていない集落に住んでいた方々の姓名が記された地図が展示されていることに気づきました。ある日突然、穏やかな日常を奪われることになった方々は...

見ようとしなければ見えないものがある。これは大人にも子どもにも変わりありません。見ようとするだけで初めて見えるものがある。教師が子どもを見ようとするだけで、より一人ひとりの学びの背景が見え、適切な指導・支援ができるはず。今後の教育活動において最も大切にしていきたいフレーズになりました。